

スマート・ターミナル・シティさいたま（埼玉県さいたま市）

駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境（スマート・ターミナル・シティ）の形成に向け、生活利便性向上・まちの賑わい形成を支えるマルチモーダル・インターモーダルな移動環境・交通サービス体系づくりを軸に、3D都市モデルや各種サービスデータの統合・分析による施策効果の可視化等を通じて、多様な地域プレイヤーを巻き込んだ産官学民連携によるモビリティサービス普及、都市空間・環境整備に向けた合意形成等を推進する。

KPI（目標）	現況値	目標値
まちなかの滞留人口・時間	(取組の中で計測)	(取組の中で計測)
交通利便性への満足度	57.8% (R2)	64.0% (R7)
自動車分担率(市全体)	26.8% (H30)	現況からの減
グリーンポイント発行量	0ポイント	(取組の中で計測)

実行計画 駅を核とした「スマート・ターミナル・シティ」



「市民のウェルビーイングな暮らしを実現するスマートシティさいたま」の実現に向け、駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を構築。

- 施策①** <モビリティサービスの充実>により、健康で環境にやさしい脱クルマ依存型生活行動を支え、地域回遊性を高めるとともに、
- 施策②** モビリティと地域経済活動が連携した<ライフサポート型MaaSの構築>を進め、
- 施策③** 各種サービスデータや都市データを活用した<スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成>を促進する。

【先行モデル地区】

- **中心市街地型モデル**（高密エリア・商業業務地ゾーン）
→大宮駅・さいたま新都心駅周辺地区
 - **郊外住宅地型モデル**（中高密エリア・住宅地ゾーン）
→美園地区
- 先行モデル地区での実践・成果を市内他地区等へ横展開

実証内容 過年度実証成果等も踏まえつつ、施策①～③に関するR4実証1～3を展開。

【R4実証1】AIオンデマンド交通サービスの地域共創民間実装モデルの構築（郊外住宅地型モデル）

○AIオンデマンド交通サービスの実装モデル構築に向け、地域ポイントを活用したダイナミックプライシング、まちに還元されるインセンティブの獲得を目標にした脱炭素貢献可視化による交通行動変容の促進等を試行・検証。



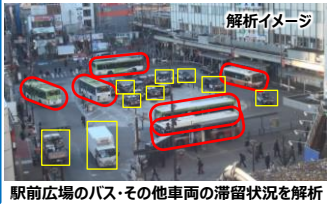
【R4実証2】シェア型マルチモビリティと既存公共交通の連携ポートの実証（中心市街地型モデル）

○国道と連携したモビリティポートの設置により、シェアサイクルと路線バスの乗り継ぎを促すとともに、効果検証からバス需要と連携したポート配置を検討。



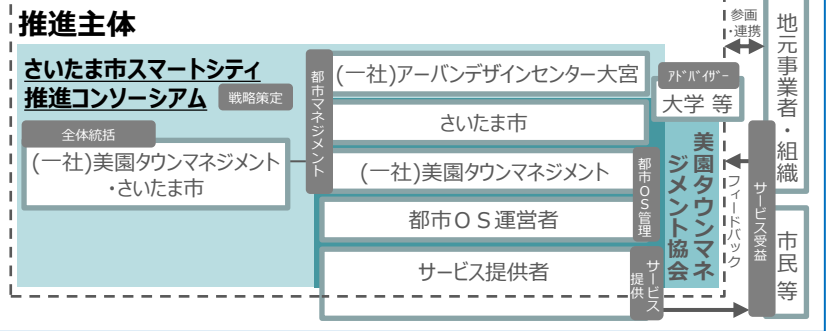
【R4実証3】スマートターミナルシティの実現に向けたスマートプランニング実施（中心市街地型モデル）

○バス等の滞留状況の解析から、時間帯でバス数等を変動させる「スマート駅前広場」のプランニングに活用。
○建物形状等を反映した3D都市モデルを用いた環境評価から、ウォーカブル空間形成施策へ活用。



体制 スマートシティ施策をエリア・分野の拡張のフェーズへ進めるにあたり、さいたま市スマートシティ推進コンソーシアムが

推進主体として統括・マネジメントし、各種プレイヤーの参画・連携を促進。



スケジュール 市内先行モデル地区で実証・実装。市内他地区・他都市へ展開。

施策	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度～
①モビリティサービスの充実			シェア型マルチモビリティ実証実験(中心市街地)		先行モデル地区での実装
			AIオンデマンド交通サービス実証実験(郊外住宅地)		
②ライフサポート型MaaSの構築			モード間連携実証		先行モデル地区での実装
			地域経済連携実証		
③スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成			スマートプランニング高度化(3D都市モデル活用含む)		先行モデル地区での実装
			空間・都市基盤等の計画		